

平成 27 年度大学ポートレートステークホルダー・ボード議事録

1. 日 時：平成 27 年 12 月 21 日（月） 10:00～12:00

2. 場 所：学術総合センタービル 11 階 竹橋オフィス 1112 会議室

3. 出席者

（委員）

勝方委員、川目委員、小林委員、柴田委員、杉谷委員、森崎委員

（オブザーバー）

文部科学省：伊藤高等教育企画課高等教育政策室長、

片柳高等教育企画課高等教育政策室室長補佐

（事務局：大学評価・学位授与機構）

岡本理事、武市大学ポートレートセンター長、井田大学ポートレートセンター教授

鎌塚評価事業部長、小山田大学ポートレートセンター事務室長

（事務局：日本私立学校振興・共済事業団）

谷地私学経営情報センター長

4. 議 題

（1）大学ポートレートの概要について

（2）大学ポートレートに対する意見・評価について

（3）その他

【小山田大学ポートレートセンター事務室長】

ただいまから平成 27 年度大学ポートレートステークホルダー・ボードを開催いたします。本日議事を進めていただく主査につきましては、参考資料 2 の 11 ページの「大学ポートレートステークホルダー・ボード設置要項」をご覧ください。第 4 条第 1 項にステークホルダー・ボードに主査を起し、議長が指名すると定められており、大学ポートレート運営会議の議長に主査を指名していただくことになっております。平成 27 年 10 月に開催されました大学ポートレート運営会議（第 3 回）におきまして、議長から小林委員が指名されております。本日の議事につきましては、小林主査より進めていただくこととなりますので、よろしくお願いいたします。

【小林主査】

主査に指名されました東京大学の小林と申します。大学ポートレートは、データベースを用いて大学の教育情報を公表し活用するという目的のため、全大学共通の仕組みとして構築が進められてまいりました。平成 27 年 3 月より国公立全体で教育情報の公表が開始されたものであります。私はそれに先立ちまして、大学ポートレート（仮称）準備委員会ワーキンググループの主査として、大学ポートレート（仮称）準備委員会の鈴木委員長とともに、準備を進めてきたという関係で主査に指名されたと理解しております。

大学ポートレートの運営の重要事項については、大学関係者による自主的・自律的な取組が重要であるという観点から、大学関係者等から構成される大学ポートレート運営会議において審議される仕組みになっておりますが、大学にとって重要なステークホルダーである高等学校関係者、産業界関係者など、様々な方の意見を適切に反映することが重要であるということが大学ポートレート（仮称）準備委員会で指摘されておまして、そのために、ステークホルダー・ボードが開催されることになったわけであります。

準備の段階では、「小さく生んで大きく育てる」ということが、委員長から盛んに強調されまして、このような考え方に沿って準備が進められてきたわけであります。

公表する情報をどのようにして大学ポートレートの中に収めるか、あるいは公表の形式等について、準備段階から審議を重ねてきたわけでありますけれども、十分な審議ができなかったという面もございました。合意できなかった事項が幾つかあったことも含めて、まずは合意できた事項から実施していくということで、現在の大学ポートレートがスタートしたと考えられます。

そのような背景を踏まえつつ、今後は大学ポートレートがよりよいものになるように意見をいただき、そして何よりも多くの方に利用していただかなければ、取り組む意味が薄れてしまうわけでありますので、皆様には大学ポートレートの改善・改良に向けて意見をいただきたいと思っております。その上で、それを大学ポートレート運営会議に提供するという事で、改善・改良を図っていきたいと思っております。それぞれの利用者の立場から忌憚のないご意見をいただければ幸いです。また、大学ポートレートの改善に資する方策があるようでしたら、積極的なご提案をいただきたいと考えております。

・事務局より、委員の就任、事務局の紹介について説明があった。

【小林主査】

委員の皆様には大学ポートレートのステークホルダーとして大学ポートレートの現在の状況について意見または評価を述べていただくこととなりますので、よろしくお願いたします。次に、主査代理を選考したいと思います。参考資料2の11ページの「大学ポートレートステークホルダー・ボード設置要項」第4条第3項をご覧ください。主査代理は主査が指名することになっております。主査代理は主査を補佐し、主査に事故があるときは、その職務を代理するという役割を担っていただくことになっております。勝方委員にお願いしたいと思いますので、よろしくお願いたします。

また、大学ポートレートの運営においては、文部科学省より多大なご支援をいただいているところでございまして、「大学ポートレートステークホルダー・ボード設置要項」第5条第2項の規定に従い、文部科学省からもご参画いただくこととしたいと思います。本日は、文部科学省から伊藤高等教育企画課高等教育政策室長、片柳高等教育企画課高等教育政策室室長補佐にお越しいただいております。伊藤高等教育企画課高等教育政策室長よりご挨拶をよろしくお願いたします。

【伊藤高等教育企画課高等教育政策室長】

文部科学省高等教育企画課高等教育政策室の伊藤と申します。主査からご紹介がありましたとおり、大学ポートレートの趣旨は、大学の質の向上という観点から大学の積極的な情報の公表が大切であることとともに、何より大学を選択する子供たちに対して、よりわかりやすい情報を積極的に発信することにより大学の取組が見える化していくことが大切

であるということで、中央教育審議会でも大学の情報を提供する共通的なプラットフォームをつくる必要があるという提言がありました。ご審議の末、大学コミュニティの合意の上に、まずこの取組を始めることが大切であるということで、平成 27 年 3 月から本格稼働していただいたところでございます。

利用状況についても事務局からご紹介があると思いますが、中央教育審議会では、大学評価の審議の中で大学ポートレートの項目という点に関しては、認証評価での負担や大学の負担軽減のための活用という観点からも、十分でないということや大学の取組をより見える化する観点からも十分ではないのではないかという意見もいただいております。

本日、様々なお立場の方々にお集まりいただいておりますので、忌憚ないご意見をいただきたいと思っております。

【小林主査】

ありがとうございました。議事に入りたいと思います。ステークホルダー・ボードは、「大学ポートレートステークホルダー・ボード設置要項」第 5 条第 3 項の規定により公開となりますので、よろしく願いいたします。最初に、大学ポートレートの概要について、事務局から資料に基づいてご説明をお願いいたします。

【小山田大学ポートレートセンター事務室長】

資料 2 「大学ポートレートの概要」の 1 ページをご覧ください。大学ポートレートは、データベースを用いた大学の教育情報を活用・公表するための共通的な仕組みとなっております。大学の多様な教育活動の状況を国内外の様々な方にわかりやすく発信すること。また、大学の教育情報を活用して、大学自らの活動状況を把握・分析すること。それから、基本的な情報について共通的に公表し大学に寄せられる各種調査への対応に資することで大学の負担軽減を図ること。大きくこの 3 つの目的でスタートしたものでございます。

大学ポートレートで発信している情報につきましては、大学単位で公表する情報と学部・研究科等の単位で公表する情報がございます。大学単位で公表する情報は、大きく 7 項目ございます。学部・研究科単位では、教育研究上の目的と 3 つのポリシーから進路に関する情報までの大きく 8 項目について情報を発信してございます。

2 ページは、大学ポートレートの運営体制でございます。大学ポートレートの運営にあたりましては、大学コミュニティの自立的な取組を尊重するとともに、関係者の意見を適

切に反映し、且つ責任ある運営がなされる体制とすることが求められております。このため、大学コミュニティを構成する大学団体、認証評価機関、大学ポートレートのシステムを運用する日本私立学校振興・共済事業団と当機構から構成される大学ポートレート運営会議により運営にあたっての基本方針を審議し決定することとなっております。

大学を取り巻く関係者、高等学校関係者や産業界、有識者等の方々の意見を大学ポートレートの運営に適切に反映するために、大学ポートレートステークホルダー・ボードを設置しまして、大学ポートレート運営会議はステークホルダー・ボードからの意見又は評価を聴くという仕組みになってございます。

大学ポートレート運営会議の下には、専門的、技術的事項を審議するために専門委員会を設置することができることとなっております。現在、大学ポートレートの国際発信に向けて発信項目等をご審議いただくため、国際発信に関する専門委員会を立ち上げて、審議を進めていただいているところでございます。

大学ポートレート運営会議の運営に際しましては、大学ポートレート関係団体による事務段階での調整の場でございます。大学ポートレート運営会議に係る実務者協議会を設置しております。大学団体や認証評価機関から組織されておまして、こちらで意見を調整した上で、大学ポートレート運営会議を運営できるよう配慮させていただいているところでございます。

基本的な考え方として、大学ポートレートの参加・不参加については大学の任意となっており、公表・活用の主眼は教育情報となっております。公表開始以降も大学の負担に配慮しつつ、継続して改善・改良を加えるということとなっております。

次に、公表の目的とステークホルダーでございます。大学を取り巻くステークホルダーとして多種多様な方がおられます。公表にあたっては、大学進学希望者や保護者にわかりやすいものとなるよう構築することが適当とされております。

公表の形式については、数値だけではなく、文字や図、グラフ等を活用します。また、ランキングにつながらないよう、1大学1表示とすることとされております。キャンパスの所在地等の共通の検索を可能とし、大学の負担軽減と情報充実の観点から各大学の既存のウェブサイトへのリンクも活用することとされております。

3ページは大学ポートレートの情報収集と公表の体制を図であらわしたものでございます。国公立大学については、当機構のデータベースにデータを登録していただきます。私立大学に関しては日本私立学校振興・共済事業団の学校法人基礎調査として提出されたデ

ータが日本私立学校振興・共済事業団のデータベースに登録されるという仕組みになって
ございます。2つのデータベースにそれぞれデータが蓄積されて、データの一部が社会に
公表されていくわけでございます。また、利用者がそれぞれのデータベースにアクセスす
ることなく閲覧することができるよう国公立共通検索画面を構築しております。また、
国公立大学につきましては、当機構のデータベースへのアクセスを可能としておりまして、
各国公立大学がデータベースからデータを引き出して分析・活用することができる仕組み
となっております。

4ページ以降が公表画面となっております。国公立共通検索画面と、国公立の公表
画面に関しては当機構が構築をしております。私立の公表画面につきましては、日本私立
学校振興・共済事業団が構築しております。それぞれの画面で公表項目の見せ方などで差
異が生じているところですが、両者とも大学ポートレート運営会議の前身でございます大
学ポートレート（仮称）準備委員会での決定を踏まえて公表をしているところでございま
す。

4ページがトップ画面でございます。大学ポートレートの概要やユーズガイド、我
が国の高等教育の概要、用語集、データ分析集等のコンテンツをご用意してございま
す。まだ工事中のコンテンツもございしますが、今後充実を図っていきたくと考えております。

5ページが国公立共通検索画面でございます。6ページが国公立の詳細検索画面で、
国公立共通検索の項目に加え学位に付記する専攻分野の名称や学生支援に関する項目で
大学検索ができるようになっております。7ページが私立の詳細検索画面で、男女校種別
や特色の目的、教育の取組などで検索ができるようになってございます。

8ページが検索結果画面でございます。必要な検索項目を入れていただきまして、検索
をすると大学が表示されます。地域や五十音順での並び替え、お気に入り登録ができるよ
うになってございます。

9ページが国公立の公表画面でございます。大学の基本情報の画面になってございます。
国公立の画面には、資料請求ボタンがございまして、私立の画面にはない機能となってお
ります。

10ページは学部・研究科ごとの画面で9画面で構成されております。それぞれの項目選
択をクリックしますと該当する画面が表示されます。

11ページが私立の大学全体の情報の表示画面で、上段の8つのタブで構成されていま
す。12ページは学部・研究科ごとの表示画面で、9つのタブで構成されています。大学全

体と違うところは、右から3つ目の入試・学生情報が別で整理をされているところがございます。

私立の画面では更新情報がございます。入試情報やイベント情報などの各種情報が各大学、学部・研究科ごとに掲載できるようになっており、国公立にはない特徴的な機能となっております。

このように国公立と私立とで検索機能や画面構成が異なっております。大学ポートレート構築のプロセスにおいて国公立は当機構、私立は日本私立学校振興・共済事業団で情報を収集、蓄積するということとなりまして、公表項目は共通として大学ポートレート（仮称）準備委員会でご議論いただいてきたところですが、システム開発においては、大学の役割、特色等も踏まえつつ、公表画面と検索画面の構築を行ってきました。

13 ページは大学ポートレートの今後の展開として検討している事項を整理したものでございます。公表項目の充実や国際発信、ステークホルダー・ボードからのご意見への対応、大学の情報活用、負担軽減ということに取り組んでいくということで、課題は山積している状況でございます。できるところから少しずつでも前に進めていきたい考えているところがございます。

【小林主査】

大学ポートレートは平成27年3月から国公立大学全体で公表を開始しておりますが、公表開始後の参加大学数やアクセス数等の状況について、事務局から説明をお願いいたします。

【小山田大学ポートレートセンター事務室長】

資料3-1「大学ポートレート参加状況」をご覧ください。大学及び、短期大学の大学ポートレートへの参加状況をまとめたものでございます。全体で90%を超える参加率となっております。未参加の大学には引き続き参加を働きかけてまいりたいと考えております。

資料3-2「公表画面へのアクセス数について」をご覧ください。これまでのアクセス数を整理したものでございまして、合計で約521万ページビュー数となっております。月平均で約36万ページビュー数となっております。

資料3-3「広報活動の取組状況について」をご覧ください。これまでの広報活動につ

いては、高等学校関係者が集まる会議での大学ポートレートの説明、報道機関や教育産業の情報誌への記事掲載、教育委員会、高等学校関係団体へのチラシの配付、高等学校における進路指導のための副教材への掲載に取り組んでまいりました。

本日は机上にチラシ3種を配付してございます。このようなものを作成いたしまして、都道府県及び指定都市の各教育委員会を通じて高等学校にも配付をしているところでございます。

【小林主査】

ただいまの現状のご報告について、ご質問はございますか。

【杉谷委員】

ページビュー数についてご紹介がありましたが、どのような方がアクセスしているのかを詳しく教えていただければと思います。

【小山田大学ポートレートセンター事務室長】

平成27年7月からアンケート調査を実施させていただいております。アクセスされた方の目的についてアンケートを取らせていただきました。質問内容としては、大学進学目的でアクセスされたのか、あるいは大学院進学目的でアクセスされたのか、進路指導の情報収集のためにアクセスされたのか、その他大学情報を収集されるためにアクセスされたのかということで、いずれかを選択していただくということでアンケート調査を行ってまいりました。

大学進学の情報収集のためにアクセスされた方が3割程度でございまして、大学院進学のための方が1割弱でございます。進路指導の情報の収集も1割弱で、残り6割近くの方は、その他、大学情報等の収集のためにアクセスをされているという状況でございます。

【小林主査】

調査の立場から申し上げますと、その他が多いあたりは内容を分析していただければと思います。

【柴田委員】

大学ポートレートのチラシについて、既にどれくらいの数を配布されたのか、概数で結構ですのでお教えてください。

【小山田大学ポートレートセンター事務室長】

後ほど、ご報告させていただきます。

【小林主査】

日本私立学校振興・共済事業団も含めて、後ほどよろしくお願いたします。

ここまで大学ポートレートの概要や現在の状況についてご報告をいただいたわけですが、これから大学ポートレートに対するご意見をうかがっていくことにしたいと思います。その前に、留意すべきことがございますので、事務局からご説明をお願いしたいと思ます。

【小山田大学ポートレートセンター事務室長】

本ステークホルダー・ボードにつきましては、現在の大学ポートレートの運営状況についての意見・評価をいただき、大学ポートレート運営会議での大学ポートレートの運営の改善に役立てていただくという趣旨でございます。

したがって、ステークホルダー・ボードとして意見を整理して提言をしたり、とりまとめて結論を出すということではなく、様々な視点からのご意見を大学ポートレート運営会議にご報告させていただきたいと考えております。

本日、大学ポートレートに関して自由にご議論いただくこともできるかと思ますけれども、大学ポートレート運営会議からもステークホルダー・ボードの運営に際して円滑に議論を深めていただくということで、ある程度その項目を絞りながらご意見をいただいております。1つ目は、公表・検索画面についてでございます。画面の構成や見やすさ、わかりやすさ、その他に機能として追加すべきものについてご意見をいただければと考えております。

2つ目は、公表・検索項目についてでございます。追加すべき公表項目や検索項目についてのご意見をいただければと考えております。3つ目は、広報についてでございます。大学ポートレートの知名度を高めるための方策、あるいは工夫などについてのご意見をいただければと考えております。4つ目は、その他お気づきの点としまして、例えば、運営体制

や大学の負担軽減等についてのご意見をいただければと考えております。留意事項については以上でございます。

【小林主査】

ありがとうございました。この点について留意していただいて、これからご意見をうかがいたいと思いますが、その前に欠席の委員及び中央教育審議会からの意見もいただいておりますので、ご報告をよろしく願いいたします。

【小山田大学ポートレートセンター事務室長】

欠席委員からの意見のご紹介でございます。公表・検索画面についてご意見をいただいております。基本的には使いやすく、わかりやすいウェブサイトという評価をいただいております。ご意見といたしましては、トップ画面に戻れるボタンを準備してはどうかというご意見をいただきました。欠席委員からの意見は以上でございます。

【小林主査】

ありがとうございました。それでは、中央教育審議会の意見については伊藤高等教育企画課高等教育政策室長からよろしく願いいたします。

【伊藤高等教育企画課高等教育政策室長】

資料4「中央教育審議会における大学ポートレートに関する主な意見」をご覧ください。先ほども言及させていただきましたけれども、中央教育審議会におきまして、認証評価制度についての改善の審議を行っているところでございます。その際に、あわせて大学ポートレートにつきましてもご意見が出てきておりますので、ご紹介申し上げたいと思います。

大学ポートレートの役割ということで、事務局からも3点説明がございましたけれども、1点目として大学のわかりやすい情報の発信。2点目として大学の教育情報の活用ということで、例えば、認証評価等の様々な活動においても活用できるのではないかという文脈で議論されているということでもあります。

3点目は、大学の各種情報調査への対応として公表情報を活用することによっての負担軽減ということもございます。その観点も、認証評価でのデータの活用ということで議論されているところでございます。

負担軽減を前提とした評価情報としての活用と、大学の二度手間と資料を提出するという観点での負担軽減、この2つの観点で認証評価で活用しようとしても課題があるということで、資料4にございますとおりの意見が出ています。

1点目は、認証評価で活用するには、情報項目や内容が十分でないため、一層の充実が必要であるということでもあります。

ただ、2点目にございますとおり、大学の負担軽減の観点から公表情報を認証評価でも積極的に活用していくということで、大学ポートレートと公表情報を活用していくことは必要であるという前提で意見が出されているところがあります。

また、大学ポートレートの情報発信について、本日の検討事項にございます検索画面のわかりやすさという点で、3点目と4点目の丸印として意見が出てきております。

3点目の丸にございますとおり、大学ポートレートの最初の基本情報に関する共通項で必ずしも足並みがそろっていないということや、また大学の特色にかかわるような基本情報は共通フォーマットとして掲載すべきではないかとの意見であったり、4点目のとおり、社会が求めている内容という観点で、卒業後の就職先やどのような人材を養成しているのかとの情報は、もう少し丁寧に発信していくべきではないかとの意見もいただいているところでございます。

簡単ではございますが、現在の審議における主な意見をご紹介します。本日の審議にご参考にしていただければと思います。よろしくお願いいたします。

【小林主査】

ありがとうございました。私も中央教育審議会の委員として、審議には参加しております。非常に厳しい意見が出ております。認証評価機関からも、このままではとても使えないという厳しい意見も出ておりますので、そのあたりのことも踏まえて、ご意見をいただきたいと思っております。

それでは、幾つかの項目について、本日は第1回ということもありますので、ご自由に意見をいただきたいと思いますと考えております。

初めに公表・検索画面についてご意見いただきたいと思いますのですが、いかがでしょうか。

【川目委員】

こういった画面の構成上の問題から、根本的な考え方についても、多岐にわたると思っ

ています。

例えば検索画面のことをコメントさせていただくに当たって1つお伺いしたいのは、基本的な目的が認証評価等への活用や、大学側の負担軽減、あるいは受験生が活用するということが挙がっていますが、それぞれに大分目的が違うので、これを1つのウェブサイトで公表したときに、当然のことながら、一部には少し役立つかもしれないけど、他ではそうでもないということは容易に起こり得ることだろうと思っています。

その場合に、目的に応じたKPIといえますか、進捗、稼働し始めてからここまで来た経緯をお伺いできればと思います。先ほどページビューや、掲載大学数についてお話がありました。例えば認証評価であれば、受験生が使うのであればページビューがそうかもしれませんけれども、どうやらここまで来ているなどかという、「小さく生んで大きく育てる」というところの鍵となる指標について、KPIをどう設定されているのかというのを、企画・構築を進められた方からお話が伺えるとありがたいです。

【武市大学ポートレートセンター長】

先ほどご説明がありました。大学ポートレート（仮称）準備委員会で設定されたということが最初のスタートであったわけです。大学ポートレート（仮称）準備委員会では、残念ながら、活用のことについては先送りになった形になっておりました。認証評価での活用ということも中央教育審議会でも話題になっておりますが、活用という観点で見なければいけないことでして、大学ポートレートでデータとして蓄積している情報は、全てが公開情報ではございません。公開のために使っているわけではなくて、その一部を公開するというところでやっております。

ですから、このページビューも含めたものとしては、中央教育審議会でも議論されているか十分に承知しておりませんが、大学ポートレートと指している言葉が、現在の画面に表示されることを情報だと思っていると、それは違うわけで、幾つかの分析をしなければいけませんし、データの活用の議論の中で考えるべきものだと考えております。

その一方で、公開についてのKPIは何かについては、非常に難しいと思っています。ページビューでいいのでしょうか。機構が担当している部分においては、新規の訪問者の情報も持っております。しかし、どこをその数値として目標とすればいいのか、いろいろな場所で大学ポートレート運営会議でも指摘されますが、非常に難しいのです。

平成28年3月で1年経つこととなりますので、前年度比ということも、これから活用し

ていく上では設定はできるのですが、現在のところ、必ずしもページビューが多いということではなく、決して満足しているわけではございません。先ほどもございましたけれども、訪問者の属性は、小林主査からご指摘のように、その他が多いのは問題ではあるといえます。当初想定した受験生が多く参照するという目的が果たしているかというのは、これから分析しながら改善していく必要があるかと考えております。

【川目委員】

認証評価は、どういうKPIというのか検討しなければいけないと思います。手前どもの業務に近いところで、受験生に見ていただくということを考えると、先ほど見せていただいたページビューは、3割が受験生だと考えると、少ないと思います。おそらく民間の受験情報ウェブサイトでは、年間のページビューは1億を超えているはずですが、そういうことを考えると、活用はされていないと感じます。

そのときに、検索画面のことに結びつけますと、私は、この広報紙の中にもあったように、今までの大学選びとは異なる見せ方をさせていただけるものだと思って、当初、非常に期待をしておりました。ただ、画面を見ていくと、例えば私立大学の目的と項目の関係のところへ行くのは、実は画面の一番下のボタンからになっています。そうすると、日本の地図があって、エリアがあって、大学名を入れるみたいなことになると、某グループで持っている情報ウェブサイトもそういう画面がトップに来ますが、ほぼ重なってしまいます。見る側からすると、一体何が違うのかということになってしまっていて、もったいないことになっている結果が積み上がって、このページビュー数になっているのかと思いました。

教育の目的や施策等、今まであまり光を浴びてこなかった、入口情報とは異なるところで、大学のそれぞれの個性を表に出すと理解をしていましたが、それを実現する画面になっているかという、むしろ逆に作用してしまっていると感じております。

【小林主査】

ありがとうございました。活用という言葉は少し違う意味で使われているので、整理したいと思います。大学ポートレート（仮称）準備委員会でいう活用というのは、あくまでデータを使うという意味で使っております。センター長からございましたように、必ずしも公表されているものではございません。

今のご意見は、実際に使う方にとってどの程度活用できるかという観点からのご質問だ

ったと思いますので、それとは区別したほうがよろしいのではないかと思います。

それから、認証評価についての活用は、また別の問題になります。文部科学省からもご説明ありましたけれど、それは認証評価機関との関係ですので、ここはその場ではないと思いますので、議論、意見をいただく必要はないかと思っております。一応、意見としてご紹介したとご理解いただければと思います。

今の問題とかかわっておりますが、2つのデータベースを別々につくっていることで、かなり違うものになっているのが大きな印象になっております。

ただ、この理念といたしましては、入口は1つで、後で分かれるようなことがあっても、ユーザー側からすると、それは関係のない話であって、国公立大学であろうと、私立大学であろうと、大学の情報を見たいということでスタートしているわけでありましてけれど、何か2つのものをばらばらにくっつけたという印象が、どうしても拭えないところがあります。これはメガバンクの統合のような話で、ATMがお互い違っていて、非常に使いにくかった時代がありますけど、それとよく似たような状況になっているのではないかと思います。

細かい技術的な点はいろいろありますけど、欠席委員からのご指摘にもありましたように、トップページがどれなのか、わからなくなってしまう。例えばトップページと書いてあって、日本私立学校振興・共済事業団のページに入っていると、ここでいうトップページは日本私立学校振興・共済事業団のトップページの意味なので、そちらにしか飛ばない。大学ポータル全体のトップページに戻るときにはどうしたらいいかということなど、使い勝手がよくできていないのではないかという気がします。

項目が違っているというのも、これがお互いに国公立大学と私立大学で競ってということで、項目を変えるということで工夫したと思えますけれど、見ている側からすると、これが非常に違和感があるのです。お互いに非常に違う項目が入っているわけで、全部統一するという事は難しいと思えますが、ある程度、統一性、整合性があってもいいのではないかと思いますけれど、いかがでしょうか。

【柴田委員】

学生、あるいは高等学校がアクセスしていくときに、早い段階で、高等学校側が本当に必要としている情報を見せていただきたいです。私も大学基準協会の事業に参画しているのですが、大学基準協会側の情報と学生が欲しい情報とは、確実に違います。そう

いった意味では、早い段階で高等学校側が欲しい情報をうまく見せていただきたいです。

あと、様々な業者がお持ちの多様なウェブサイトと比較してみますと、使い勝手という部分で、情報の優先順位が異なっていると感じます。我々が子供たちを指導するときに、1つの大学の情報で指導するわけではないです。幾つかの大学を比較していきながら保護者と子供たちとディスプレイ画面で三者面談をやります。その際に活用させていただきたいという部分があります。

ですから、基本情報だったら大学を比較できるような1つの画面をつくれるようにしていただきたいです。

【小林主査】

ありがとうございました。今の点について、よろしいでしょうか。

【杉谷委員】

大学ポートレートの画面を大学生に見てもらっても、同じようなタイプの大学、あるいは分野で比較したいという意見が一番出てきますので、今お話のあった点については、できる可能性というのは検討していただく価値があると思います。

私学版は特色のある取組についていろいろ書かれていますが、どちらかという中央教育審議会での用語が使われています。別途、用語集というのは示されていますが、これが十分に高等学校などにどこまで伝わるのかというのは疑問でございます。

それと、私自身検索をしていて気づきましたが、キーワードを複数入れてアンド機能で検索することができなかったのですが、そのあたりはいかがでしょうか。

例えば、私が所属する学部ですと、教育人間科学部ですので、教育と人間の間に、スペースを入れても、該当するものが出てこないのです。そのあたりがどうなっているのかと、このを確認させていただけたらと思います。

【小林主査】

今の後半のご質問については、日本私立学校振興・事業団へのご質問だと思いますが、いかがでしょうか。

【谷地私学経営情報センター長】

確認して、またご回答いたします。

【小林主査】

関連して、国公立大学についてはいかがですか。アンド検索はできると理解してよろしいのでしょうか。

【小山田大学ポートレートセンター事務室長】

グーグル検索を使っておりまして、アンド検索はできるようになっているかと思います。

【杉谷委員】

そのグーグル検索も、使えることは使えますが、情報がたくさん出てくるので、本当に使いやすいのかというのは、疑問に思いました。

【川目委員】

検索というのは、そのウェブサイトの、どういう検索項目を立てるかということが、ウェブサイトの心臓部といいますか、ユーザーを誘導していくことになります。これをグーグル検索を使ってしまうと、じゃあ最初からグーグルを使えばいいじゃないかという、気もしますが、いかがですか。

【小山田大学ポートレートセンター事務室長】

あくまでも大学ポートレート内に掲載されている情報の中で検索をかけるということになりますので、その他大学ポートレート以外のウェブサイトの情報を引っ張ってくることはない形にはなっております。

【川目委員】

もちろん、それは理解しております。できればそこへ、学費の支援体制について等、幾つか項目が立っていましたけれども、私立大学のような立て方というものもあるのではないのでしょうか。先ほどの私立と国公立を一緒にするという観点と重なりますけど、それがウェブサイトの存在感を大きくするポイントではないかなとは感じております。

【小林主査】

例えば、授業料について知りたいというのは当然あります。授業料 100 万円以下の大学はどれぐらいあるかを知りたいわけですが、そういう機能は今のところついていません。国公立で休学時納付金の有無というのがあって、検索しましたら 37 校出てきて、国立が 24 校、公立が 11 校、その他でサイバー大学とビジネス・ブレイクスルー大学が出てきます。これがまず、なぜこういう結果が出てくるのかがよくわかりません。それから国立について、そんなに授業料を取っているわけではないのですから、休学時の納付金というのはあまり意味がないわけです。ですから、そのあたりの作りが、受験生からすると非常にわかりにくいのです。

それから、37 校が出てきますが、37 校該当しますと言っているだけで、休学時に幾ら払わなきゃいけないかという情報は、また別のところで探さなきゃいけないという非常に手間のかかる作業をしなきゃいけないわけです。

そういうあたりが先ほど言いましたように、比べられるような仕組みができていないのでこうなっていると思いますが、本当に受験生、あるいは保護者の立場から作っているのかというのは非常に疑問に感じます。

【柴田委員】

大学の情報を子供たち、あるいは学校側、高等学校側から調べていくときに、大学自身のホームページにいかないといけないというところが数多くあります。そうしますと、何回か使っていくうちに、最初から大学のホームページに行ってしまったほうが、はるかに良いと思うようになります。大学も受験生に対してのページをきちっとつくってありますので。基本は、大学ポータルに入った中で、各大学の実態が読み取れる構造にしていかなければいけないとは感じました。

【小林主査】

そもそも、こういった税金を使ってやる意味は、公式に定義された情報で共通に見れることが重要なわけで、そのために、こういったものをつくっているというのが共通の理解としてあると思います。ところが今の状況ですと、それが各大学のホームページに行っただほうが早いということになり、その意味はあまりないということになりますので、そのあたりはぜひ、これから改良しなければいけないのではないかと思います。

【武市大学ポートレートセンター長】

先ほど柴田委員からのご指摘のように、複数の大学を画面で見られるようにするということが、これは大学ポートレートの設計当初から示されていた課題でして、大学ポートレート運営会議の課題であり、そこで決められております。私どもが技術的にそれを行うことは可能であっても、現状はできないというのが実情でございます。ステークホルダーの方々から、そういったご意見があったということは大学ポートレート運営会議に伝える必要があると思います。貴重なご意見としてお伝えできればと思います。

【小林主査】

ありがとうございました。私たちは予算やセンシティブなところを考慮せずに発言しておりますので、それを考え出すと何もできませんので、そこはご容赦願いたいと思います。

【武市大学ポートレートセンター長】

予算というより、現時点では比較を画面でしないという方針が原則として与えられております。技術的には問題のないことでありますので、やろうと思えば、経費もそれほどかけずにできる状況です。

【小林主査】

私から、大学ポートレート（仮称）準備委員会でここは非常に激しい議論があったところなので補足したいと思います。資料2「大学ポートレートの概要」の2ページ、大学ポートレート運営体制と公表の基本方針の一番下のところに、公表の形式というのがございます。数値に加えて文字・図・グラフ等を活用とありますが、その後に、画一的なランキングにならないようにペーパービュー形式が適当ということでありまして、ペーパービュー方式ではなくて、ベンチマーキングをするためには複数の大学が一覧できるような形にするほうが望ましいという意見も出ましたが、結論としてはペーパービュー方式にすることで決まったというのがセンター長が言われたことであります。ただし、非常にステークホルダー・ボードとしては、これでは使いにくいということが、意見としてお伝えすることになるかと思っております。

【柴田委員】

センター長のおっしゃる趣旨、私も理解しています。確かに学校というのがランキング化されることが果たして対外的にどういう意味があるのかというのは大変難しいです。ただ、使うほうからしますと基本情報、入試選抜の形式が、比較して一目でわかるような、並べてランキングにつながらない情報から、お考えいただくとありがたいと思っております。

【小林主査】

ありがとうございました。これについてもランキングになるとか、ならないとかというのは大学ポートレート（仮称）準備委員会でも議論がありましたが、委員がそれぞれ意見を言ったような形で決着したということもございますので、今の意見、ぜひお伝えしたいと思います。よろしくをお願いします。

それでは、次に公表・検索の項目についてです。足りない項目について具体的に指摘もあったということですが、ぜひユーザーの立場から、こういう項目がないということをお知らせいただければと思います。ご留意いただきたいのは、全ての項目が公表されているわけではないということと、国公立と私立で大きく違っているということもありますので、そのあたりを含めてご意見いただければと思いますが、いかがでしょうか。

【川目委員】

それこそ民間のウェブサイトと比較をして足りないものはあると思います。ただ、足りないから入れればいいのかという問題があると思っています。民間ではなくて、このウェブサイトへ来るといったときに、やはり集中的に解像度が上がっている項目を明確につくられたほうが良いと思います。裾野が広がっても、ほかにあるウェブサイトとかぶり合う可能性があります。ウェブサイトとしての競争優位性を明確に絞っていくことが重要ではないかと思っています。

【小林主査】

項目というより、項目の見せ方、絞り方が重要だというご指摘だと思います。

大学ポートレート（仮称）準備委員会のワーキングの段階で非常に出てきたのは、中退率等の項目を載せるべきだということで、議論がありました。結局、現在の段階では掲載

は見送るということだったのですが、それについてはいかがでしょうか。

【勝方主査代理】

中退率を載せなかったら全く無意味です。中退率と、それから定員充足率、この2つは、その大学がどのように見られているかの決め手だと思います。大学を判断する場合の最低限のデータです。載ってなかったら役に立ちません。

それから、先ほどからランキングとおっしゃっていますが、民間の立場からすれば、公表しているデータがランキングにつながるから云々というのでは、逃げだと思います。

私が今回、委員を引き受けたのは2つ理由があります。1つは、文部科学省が第一期の国立大学法人評価の評価結果を運営費交付金に反映した際に、マスコミがそれを結果的にランキング形式で報道したことがありました。そのとき、ランキング下位の大学から猛烈に批判が起きたことがあります。当時、私は国立大学法人評価委員でもあり、その大学と激論を交わしたこともありました。それは大学の改善につなげるという点では意義のあることだったと思います。

もう1つ、このステークホルダーという言葉です。評価においてもステークホルダーという言葉が使われてきていたのです。ところが、ステークホルダーの期待に込んでいるとあっても、そのステークホルダーが何であるのか。期待に込んでいるという根拠も示されていない状態で、単に言葉が浮いていると思ったのです。これは私だけじゃなくて、各大学からも意見が出ました。そのステークホルダーがどういう形であらわれてくるのかということに関心があって、ステークホルダー・ボードに参画しようと思いました。

考えると、このステークホルダーというのが1つのポイントになってくると思います。ステークホルダー、いろいろあります。最大のステークホルダーは受験生、それから高等学校、企業、学生、保護者もあります。その人たちに対して情報を発信するのも、もちろん役目でしょう。

逆に、そのステークホルダーからどんな評価を受けているかということも大事な要素だと思います。

例えば、満足度調査があります。各大学の項目が、本当にステークホルダーの期待に込んでいるかについてです。

私、評価の仕事で、地方の私立の短期大学へ行き、学生に聞き取りをしました。そうすると、やはり関心の項目がずれています。短期大学の学生たちの最大の関心事というのは、

専門学校があつて、4年制の大学があつて、真ん中に短期大学があつて、さあ、どこへ進学したらいいのかなということです。本当に専門を追求したい人は、専門学校に行って早くその仕事につきたいと思う。もっと幅広く勉強したいと思う学生は4年制大学に行くと思っています。じゃあ短期大学はどうか。その両方の要素があり、うまくすると両方できるのです。

だから、4年制大学へ移ることを考えている学生もいるし、4年制大学から回ってきた学生もいるし、短期大学によって多様であると思いましたが、それに対してどのように応えているのか、答えを出さなければ、意味がないと思えます。

だから、ステークホルダーの疑問点、悩みを汲み取った項目をつくらないとだめだと思えます。

例えば、ほかに、企業、ステークホルダー、企業の評価というのがあります。各大学に対して、どのように見ているのか。それから地域の評価をどのように見ているのか、例えば市長とか、地元の商工会議所の責任者なんかを監事として入れている大学もあります。そうすると、その地域との関係というのは大体想像がついてくるのです。

だから、本当にステークホルダーという意味を追求してほしいと思うし、するなら、もちろん最大は高等学校の受験指導にどう役立てるかですけれども、それ以外のところにも大きく網を広げてやっていただかないと、民間がこれだけやっているのですから、それを超えることはできないだろうと思えます。

【小林主査】

ありがとうございました。最初はステークホルダーについて10通りぐらい挙がっていたと思えます。非常に大きな表でステークホルダーを想定しましたが、これではとても収拾つかないということで、高等学校生、保護者を一番のステークホルダーに考えて作るということでスタートしたわけです。ただ、そういった観点からすると、そのステークホルダーのためになっていないのではないかと感じました。委員の方からのご意見も、そういうことだったように思えます。

確かに、ほかのステークホルダーの方もいらっしゃいますので、その方は全く無視していいということにはならないと思えます。ですから、そういった方の意見も順次聞いていく必要があるかと思えます。

そういった観点からすると、森崎委員、保護者の立場からいかがですか。

【森崎委員】

保護者の立場からして一番不安なのは、進路が不明確な子供たちです。例えば学校の先生になりたいとか、医者になりたいとか、そういう明確なものを、進路先を目標として持っている子供たちは大学も絞れます。けれども、何をしたらいいんだろう、自分に何が向いているんだろう、どういう大学に行ったらいいんだろうと迷っている子供を持つ保護者が一番難しいです。そういう子供を指導する進路指導の先生も、どうしたらいいかわからないのです。

そうしたときにいつも思うのは、私たちが大学進学したときと世の中は変わっているので全然違うこともあり、親の立場からもどのように子供たちに助言してやったらいいかわからないということです。

周りの保護者の方から聞くのは、学部にしても、聞こえは格好はいいのですが、片仮名が入っていたり、やたらと長い大学が多くあるということです。そこで何を学べるのと疑問に思っている親が多いのが現状です。

だから、教育学部や医学部のように、誰が聞いてもわかるような学びができるところはいいのですが、そうではないところが多いです。そうなったときに、そこでどういうことを勉強して、どういった就職先があるのかということは、親はすごく気になるし、知りたいところです。

そういうのがわかるような項目があれば、こういうのもあるよとアドバイスとかできると思います。

【小山田大学ポートレートセンター事務室長】

就職先はもちろん項目としてあります。ただ、それをどこまで出すかということは各大学の自由になっていますので、先ほどの見える化という意味で言うと、まだ不十分であると思います。

【森崎委員】

柴田委員が言われたような、三者面談で画面を使って生徒に指導している学校は、ほんの一部だと思います。実際、私の子供が2人とも同じ高等学校を卒業しているのですが、そうではありませんでした。相談に来れば、それには対応するのですが、そうではない子

供に対しては、各自で行きたい学校を探して自分で調べるように、としている学校が多いのではないかと思います。

かといって親に聞いても、対応できるわけではなく、子供には自分で調べて、学校の先生に聞いてとなっているのが大多数じゃないかと思います。

【柴田委員】

基本的には、いろいろな学校の子供たちのキャリア教育に関しては計画的に動いています。ただ、それが浸透している学校、あるいはうまくいっていない学校もあるのかなというところでご意見拝聴しました。

子供たちを大学に送る場合に、我々は、その大学で本当に送った子供たちを育ててくれるのか、どんな勉強ができるのかということを気にかけます。それと、卒業した後の進路が任意情報ということでは、ウェブサイトとして使えるのか疑問に感じます。子供たちを送るためには、その先どういう若者に仕立てて社会に送り出してくれるのかということが、すごく大事な情報なんです。それが任意情報になっています。

小林委員が訪れたように、奨学金等で今苦しんでいる子たちもいますので、そういうフォローアップの体制が必要だと思います。大学でも、修学するための助け方、あるいは大学での将来の進路指導がどれだけきちんとされているのかというところでは、我々にとっても非常に大事な情報と思っています。

中退率というお話がありましたけれども、複数の大学で、同じ文章があったとしても、その大学の実情は違います。数字はうそをつきませんので、中退率、定員充足率、あるいは卒業に当たって、ゼミナール等いろいろな論文を指導していただける際に、どのぐらいの生徒集団で指導していただいているのかという具体的な情報があれば、子供たちに適した大学を選ぶ手だてとしては大変有力な情報になると思っています。

【小林主査】

ありがとうございました。

私自身、経済的な理由による中退の調査をしております。先ほど休学のことも調べたということを申しましたが、中退といってもいろいろな理由があり、数字がひとり歩きするのではないかというような反対意見がありました。逆に言えば、いろいろな中退がありますから、それは大学側できちんと出していただければそれでいいかと思います。理由を

つけて出していただければ一番はっきりしますし、そもそも、そういったことをきちんと把握しているかどうかということで、大学の姿勢もそこでわかりますので、そういう意味でも、私も公表すべきだと思っています。

進路については、同じような形で公表していただきたいと思います。

それから奨学金についてですけど、重要な話がございます。平成29年度から日本学生支援機構の奨学金が大きく変わることが検討されております。そのため、平成28年の夏から予約採用というものが変わります。そうしますと、それを高校生に周知していただかなければいけないのです。非常に選択の幅が広がるのですが、それだけ複雑になりますので、そのことを高校生、保護者の方にわかっていただく必要があります。そのためには高等学校の先生にもわかっていただかなければいけないということがあります。3月に最終的に決まりまして、4月からすぐ予約採用の準備ということになりますので、これ非常に重要な情報になってきます。

そういうこともありますので、大学ポートレートがどういう形にかかわるかわかりませんが、そういうことが起きているということを示したいと思います。

【勝方主査代理】

先ほど大学、短期大学を取材して回ってきたということを申し上げましたけれどもその際に、私が大学行って、この大学はどんな大学か、どのレベルにあるのかというのを判断する場合、2つの指標を使っていました。

1つは、その大学の学校外からの資金です。企業との協力、もしくは研究費としてどの程度外部資金が入ってくるかという情報です。それが多いいいことは、大学の研究レベルが一定程度以上であるということだと思います。それは、教育へはね返ってきます。大学外からの研究資金が低ければ信用できないと思います。

もう1つは、本当に開かれた大学であるかどうかということです。それを見るのは、学校外の人をどれだけ教員として入れているかということです。教員でなくてもいいです。外部の人を入れるということは、外部に対して情報が出ていくことです。大学に自信がないとできません。企業も、社員を送り込むということになれば、その大学のことを調べます。一定以上に評価をしなければ入れません。

私、読売新聞社にずっとおりましたから、編集責任者をやっていて、国立大学をはじめとして6つぐらいの大学で記者による授業を始めました。私自身も教壇に立ちましたが、

今でも続いており、かなり好評です。

そのときに、大学を探して選びます。新聞社なりに、その大学を評価していくのです。だから、その評価が1つの目安になっていくわけです。

いろいろな形で大学を見ていく見方があると思うので、多様な方式で見て評価をして、それを受験生に知らしめていくという形のものをとっていただくと有効ではないかと思えます。

【小林主査】

ステークホルダーを最初に高校生、保護者を中心にするということになり、公表項目としては研究や財政のことが落ちてしまい載せないということにしましたが、それらを載せることでわかることも大学の見える化という意味では大きいので、項目を広げていくという意味でも今後の検討課題だと思えます。

【杉谷委員】

先ほどから出ております中退率とか進路の状況に関してですけれども、進路の状況はもちろん公表したほうがよいと思えます。中退率や定員充足率も、わかることにこしたことはないかと思えます。

ただし一方では、小規模な地方の私立大学など、定員を満たせなくて学生が集まらず、大学としても教員としても努力をしても、挽回できない状況になっています。その大学の責任というのはあるかと思えますが、そういった大学に対して経営を悪化させる、背中を押すようなことをどこまでしていいのかなということ、疑問に思うところです。

ですので、参加が任意ですので、項目によっては、全て義務づけないということが前提になるのではないかと思えます。逆に、そういう情報の中で、出せないところは、外部から見て出せないようなところなんだと判断していただくしかないのではないかと思えます。

【小林主査】

これもさんざん議論された点で、風評被害のようなことが起きるのではないかということが、大学関係の方からは意見として出ました。杉谷委員が言われましたように、任意項目という形では出せると思えます。ただ、中退率の場合は任意項目にも入っていません。

そういうことで、最初から項目として取り上げないということになりました。こういった意見があったということで大学ポートレート運営会議で報告したいと思っております。

【勝方主査代理】

今の意見に全く賛成です。地方の大学で定員割れしていくのはその地方全体の問題です。どこの大学でも共通してそうです。その中で、また選ばなければいけないわけです。

定員充足率についてデータを出そうが、出すまいが、定員割れだということがわかります。それであれば出したほうが良いと思います。

だから、出さないということで判断できるようにするしかないと思います。項目を分けて、中退率を見ていくと、ここの大学は出している、出していないということがはっきりわかるような構成にすると、読む側は助かると思います。

【杉谷委員】

今日のお話を伺っても、それから周りの状況を見ても、ステークホルダーからのプレッシャーというか、要望が非常に強まっていること、それから大学に対しても非常に厳しい目があるということも重々承知の上ですので、あくまでも任意参加という形で、できるだけ情報は公表していくような可能性を残していくというやり方しかないのではないかと思います。

【小林主査】

3番目に広報について、ご意見がございましたら、ぜひお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

【小山田大学ポートレートセンター事務室長】

広報に関しては、先ほど柴田委員からご質問のあったチラシの配付状況についてご報告をさせていただきたいと思います。

まず国公立全体でのポートレートの広報媒体として作ったチラシでございます。こちらは平成27年10月に作成したものでございまして、これまで約13,000部を配付してございます。中心となっているところは各都道府県の教育委員会、高等学校関係の雑誌を発行している団体にお配りしています。

配付の効果といたしましては、教育委員会から各高等学校にも情報を流していただいております。幾つかの高等学校から個別に、このチラシを三者面談の際に配付をしたいのでもらいたいです。ということで、約4,500部ほど高等学校にも別途配付をさせていただいているところでございます。

それらも合わせて、今のところ13,000部ほど提供させていただいている状況でございます。

大学ポートレート私学版のチラシ2部でございます。高校生向けと、進路指導の先生向けと、それぞれ分けて作成をされているものでございます。現在5,000枚ほど配付をされているということでございまして、そのうちの3,000枚は高等学校に配付、残りの2,000部は私立学校団体等への配付ということになっているようでございます。

【川目委員】

大学ポートレートについて、認知度が厳しい状況にあるというのが正直なところ。チラシが届くことと、それを理解して下さることというのは、大分そこに大きなギャップがあると思っています。高等学校にはたくさんの情報が行きますから、このチラシとあわせて先生方への説明等何か組み合わせが行われていたりはするのでしょうか。

【小山田大学ポートレートセンター事務室長】

高等学校の進路指導主事の先生がお集まりになる会議がございまして、大学ポートレートの概要について実演形式でご紹介をさせていただくという取組も、本日お配りした資料の中にも幾つか講演ということで書かせていただいております。昨年から本年にかけて3回程度講演活動もさせていただいております。

【杉谷委員】

先ほどのページビューについて、1割程度は進路指導の目的でというお話でした。平成27年9月時点で進路指導の目的でというのが1割程度で、この間ほとんど伸びていないという状況ですけれども、高等学校での進路指導がどういう形で行われているのか、実態について、もう少しわかるような情報はないのでしょうか。高等学校によっても違うと思いますが、どういうものを素材として、どのように提供していくのでしょうか。

【柴田委員】

受験指導でしたら、業者からの情報が大部分を占めます。紙媒体、電子媒体もあります。あと学校に情報を運ぶ人的な頻度もあります。学校に人が来て、直接、進路指導部で解説していますから、個々の学校でそれを受け取る形になります。

進路指導部主事を集めたところでの解説というところがありますが、非常に近いところまで手が届いていると思います。そのときに、このウェブサイトは便利だという食いつけるものが確実にあったときには生き残れると思います。大学ポートレートはその魅力がどうなのかというところで、いま一つアクセス数が伸びていません。便利なウェブサイトがあれば、子供、教員集団、学校は使います。そういった意味では、やっぱり汎用性、使い勝手のよさが課題だと思います。また、情報が過多にありますので、その中で埋もれない工夫も必要ではないかと思います。

我々にはメールで1日何十本という情報が入ります。その中で、要る情報、要らない情報、瞬時に峻別していかなければいけません。進路指導には、複数の業者から紙媒体でもたくさんの情報がきます。その中でどう生き残らせていく情報を渡していくかというのが大変難しいと思います。

【小林主査】

大学ポートレートのトップページに、用語集、日本の高等教育の概要、大学一覧等、幾つか便利そうなページが並んでいます。ですが、ほとんどリンク集です。大学評価・学位授与機構も、日本私立学校振興・共済事業団も、いろいろな情報をお持ちですので、充実させていただきたいと思います。そうしますと、またこのホームページに行こうという気になります。今のままだと、そのまま文部科学省のホームページにリンクが張っているだけなので、文部科学省のウェブサイトに遷移してしまいます。あるいは質保証関連のをクリックすると、認証評価機関のウェブサイトに遷移してしまうので、タイトルと中身が違っていることがあります。それからデータ分析集という非常に魅力的なタイトルの項目がありますが、これはクリックしても全然反応しない状況です。

例えばアメリカの同じようなウェブサイトですと、相当の分析ができるようなツールがそろっている状況です。簡単なグラフが出たり統計がとれるということになると、使い方や活用が広がってくると思いますけれど、そのあたりも考えていただければと思います。

【川目委員】

今のお話と重なりますけど、リンクがされているとか、あるいはリンクじゃなくても、説明を記載しているものというのは、高校生、保護者、先生方のアクションにつながりにくいと思います。説明から少し解釈があったり、提言があったりということがないと、アクセスして調べてみようということが起こりにくいと思います。説明の度合いが強いと、魅力的なサイトとみなすには厳しいのかなと感じます。

【小林主査】

先ほど申しあげましたけれど、公的な機関として行う意味は、共通の定義で、しっかりした情報を提供するということだと思います。それから、あまりにも情報が逆に多過ぎますから、それを縮約して、わかりやすく示すということが必要だと思います。そのあたりをやっていないとご指摘のように生き残るのも難しいということまで考えていただきたいと思います。

【勝方主査代理】

この調査の特色は、文部科学省、日本私立学校振興・共済事業団等と、公的な組織の調査と重なり合えるということだと思います。データの作成となると、大学にとって、多大な労力を要します。書式を一定化して、そのデータの記し方も同じにして、基本的なところは同じ形にして、全部使えるということにすれば、読むほうも読みやすいですし、各大学の手間も一本化されていきます。民間にはできないことであり、それが大学ポートレートの強みだと思うので、その部分を生かすように持っていかれたらよいと思います。

【小林主査】

ありがとうございました。大学の負担を減らす意味で前からの課題になっていることがあります。その点について、使いやすさがある程度要求されます。アメリカの例で言いますと、項目を組み合わせでデータをダウンロードできる仕組みでやっていますので使えます。ここにあるから見てくださいというだけでは、使えないわけで、技術的な問題ですけど、今後の課題だと思います。

本日いろいろなご意見いただきましたけれど、様々なステークホルダーがいることも考えなければいけないというご指摘がありました。中央教育審議会のから非常に厳しい意見

があるということを申し上げましたけれど、また、大学ポートレート（仮称）準備委員会に参画された方、大学ポートレート（仮称）準備委員会ワーキンググループに入られた方、中央教育審議会の委員の方等、ご意見をお持ちの方はたくさんいらっしゃいます。大学ポートレート（仮称）準備委員会でも、時間の制約もあって十分に検討されていません。ですから、外部の方をお招きして、意見を聞いて、それを伝えるという形にしたいのですが、これについてはいかがでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

【小林主査】

では、具体的にどうするかということについては、事務局と相談させていただきたいと思いますが、私のほうに一任ということによろしいでしょうか。そうしましたら、そのようにさせていただきます。

本日は初回の会議ですので、運営の仕方等についても何かございましたら、いかがでしょうか。

また、提案がございます。ステークホルダー・ボードの開催回数ですが、大学ポートレート運営会議が大体年に2回のペースで開催されています。私としては、少なくとも年に2回はやらないと、ステークホルダーの意見をくみ上げるという点では十分ではないかと思っています。皆さん、非常にお忙しいことは重々承知していますが、その程度の回数はやらないといけないのではないかとと思っています。いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。ありがとうございます。それでは、この辺につきましても私から事務局と相談させて決めさせていただきたいと思っております。

それでは、事務局から今後の日程等について、よろしく願いいたします。

【小山田大学ポートレートセンター事務室長】

本日は多岐にわたって貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。

今後のスケジュールでございます。資料5「今後のスケジュール（案）」です。本日もいただいたご意見は事務局で取りまとめをさせていただきまして、平成28年3月11日（金）に大学ポートレート運営会議を開催する予定でございます。こちらで小林主査から本日のご報告をさせていただき、そのご意見を今後の大学ポートレートの運営に反映をさせてい

ただきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

【小林主査】

意見の取りまとめについては、先ほど申しましたように、集約することはしないということですが、事務局案についてご意見もあると思いますので、事前に各委員に御確認いただいた上でということで大学ポर्टレート運営会議に出していくことにしたいと思います。

【小山田大学ポर्टレートセンター事務室長】

最後に事務局から報告がございます。

机上で配付しております、大学評価・学位授与機構と国立大学財務・経営センターの統合に関してでございます。平成28年4月1日に大学評価・学位授与機構は、国立大学財務・経営センターと統合することになっております。大学との教育研究活動面と経営面の改革を一体的に支援するというので、統合が実施されることとなっております。新法人の名称は、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構となります。

基本的には大学評価・学位授与機構を中核として新しい体制になるわけでございますけれども、新法人は両法人の現行業務をそのまま引き継ぐ形となります。したがって、大学ポर्टレートの運営に関しても新法人が引き継ぐという形になります。そのため、委員の皆様につきましては任務、勤務形態、報酬等に特に変更はございませんので、改めて委嘱手続をさせていただくということはありません。

ご了解をいただければと思います。

【小林主査】

どうもありがとうございました。

— 了 —